

実践研究

広い視野にたつて自己を見つめ、 生き方についての自覚を深める進路指導

平成四・五年度県教育委員会研究指定校

石川郡古殿町立古殿中学校

一 はじめに

「先生、生徒さん今年も大変良くや
つてくれますよ。」

今年も八月一・二日の両日、職場
体験が実施された。二年目を迎えた
職場体験も役場や地元の企業、保護
者の協力の下、無事に終了するこ
とができ、生徒も夏休みの大きな思
出の一つになったようである。

本校では、平成四・五年度県教育
委員会の指定を受け、進路指導の研
究に取り組んだ。地元へ高校がなく
通学できる高校も少ないため生徒の
進路に対する意識は低く、「通えるこ
ろに入れば」、「いまの自分の力
で入れるところへ」といった意見が
ほとんどであった。そこで本校では、
① 早い時期からの「自己理解」と
「進路の設計」

② 高校入学だけではなく、「将来を
見通した進路設計」

③ 進路の選択・決定を自己の意志
と責任で行う
の三点を特に重要な課題であると考え

えた。

二 研究の視点と組織

これらの課題を解決するため、次
の三点に研究の視点をおいた。①学
級活動を中心とした進路指導 ②主
体的に学ぶ進路指導 ③個性重視の
進路指導 つまり、進路の学習は学
級活動の授業を中心に展開される
が、広い視野に立った進路指導を行
うための啓発的経験、自己の特性・
適性を理解させそれらを生かした進
路選択をさせるための進路相談、更
にさまざまな進路情報を提供しなが
らこれらの啓発的経験、進路相談と
学級活動の授業を関連させながら、
生徒一人一人に自己実現をさせたい
と考えた。研究の組織は、「学級活動
班」「体験学習班」「進路相談班」「調
査研究班」の四班を組織し研究を進
めた。

三 研究の実際

- 1 「学級活動班」(略)
- 2 「体験学習班」
- (1) 研究テーマ

自己を見つめ将来の生き方を真
剣に考える生徒を育成するため
は、どのような体験学習を行えば
よいか

(2) 実践内容

現在、学校の教育活動において啓
発的経験は欠くことのできないもの
である。本校では、夏季休業中に、
次の体験学習を実施した。

〈一年生〉……職場訪問

・ 町内の事業所をグループごとに訪
問し、仕事の内容や働くことの意
義などについてインタビューを行
った。

〈二年生〉……職場体験

・ 役場、商工会、農協等の協力を得
て、およそ二〇の事業所で二日間
生徒が従業員と同じように実際に
働く機会をもった。

〈三年生〉……体験入学

・ 全員が自分たちで高校へ行き、体
験入学を行う。特に普通科につい
ては、体験入学を実施している学
校が少ないため、地元の高校に協
力を依頼した。

〈その他〉

・ 卒業生の体験発表や高校説明会な
どの啓発的経験の場をもった。

(3) 指導の実際

啓発的経験の指導の実際を二学年

の「職場体験」を実践例とし、取り
上げる。

① 実態の把握と計画の立案

学級活動で身近に働く人や職業
について学習する。その際に、生
徒がどの程度町内の職業や働く人
の生活について理解しているか実
態を調査した。それに基づき、事
業所の種類や事前指導の内容を精
選した。特に生徒が意欲的に職場
体験に参加するためには、事前指
導が重要な位置を占める。事前指
導の内容を考えるためにも生徒の



② 事前指導
実態の把握は大切である。